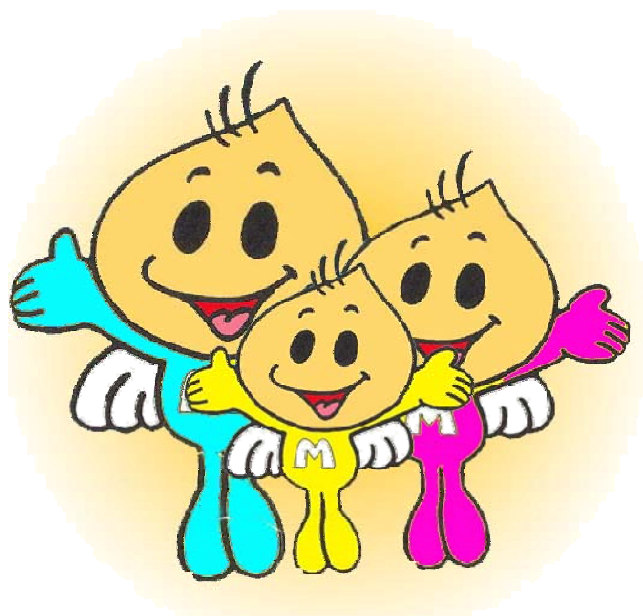


三芳町小中一貫教育基本方針

～次代を担う三芳の子どもたちのよりよい成長のために～



平成22年3月

三芳町教育委員会

目 次

はじめに

1	学校教育の現状と課題	1
2	小中一貫教育の意義	1
3	小中一貫教育の内容と期待される効果	1
4	小中一貫教育の目標	2
	(1) 三芳町のめざす学校像	
	(2) 三芳町のめざす児童生徒像	
5	小中一貫教育の形態	3
6	今後の予定	4
	(1) 組織	
	(2) 平成22年度以降の計画	
7	資料	6
	(1) 三芳町小中一貫教育全体構想	別紙 1
	(2) 中学校生活についてのアンケート集計	別紙 2
	(3) 児童生徒の実態に関するアンケート集計	別紙 3

はじめに

三芳町では、「豊かな知性と感性をはぐくむ三芳教育」の実現を目指し、教育行政重点施策の一つに「確かな学力と自立する力をはぐくむ教育活動の充実」を掲げ、三芳町の次代を担う児童生徒一人一人に確かな学力を身につけ、豊かな心や体をはぐくむとともに、「生きる力」の育成に努めています。このことは、学校教育だけではなく、家庭地域の願いでもあります。

しかし、学校を取り巻く社会的な環境が大きく変化する中、いじめや不登校問題、学力の定着の不十分さによる学習意欲の低下等、様々な課題を抱えています。

これらの課題を解決するための一つの手法として、義務教育の9年間を通して継続的で一貫性のある教育を展開し、一人一人の個性を伸ばす教育の充実を図ることが考えられます。具体的には、義務教育を修了する時点で、「自立するために必要とされる基礎基本」を確実に身につけることです。そのためには、三芳町のよさや各中学校区の特色を生かし、小学校と中学校が一体となり子どもたちを育てることが必要となってきます。

そこで、三芳町教育委員会では「三芳町小中一貫教育検討委員会」を設置し、三芳町小中一貫教育の在り方についての検討協議を重ね、「三芳町小中一貫教育基本方針」としてまとめました。

今後、三芳町の子どもたちの健やかな成長を願い、教育をより効果的なものとするために、学校・家庭・地域が一体となって小中一貫教育を推進してまいります。

1 学校教育の現状と課題

今日の子どもたちの状況をみると、学習意欲の低下、家庭での学習習慣の未定着、中一ギャップや不登校、問題行動など様々な課題があります。また、中学校への進学にあたり、学校での生活のきまりや学習内容、指導方法などの変化に、戸惑いや不安を感じる子どもたちも少なくはありません。

このような現状の中で、三芳町では小学校と中学校の連携を大切にしながら、子どもたちの指導にあたってきました。また、平成21年度より、小中の連携教育をさらに進めたものとして、小学校と中学校が一体となって、義務教育9年間を見通し、子どもたちの発達段階に応じた系統的・継続的できめ細やかな学習指導や生徒指導を行う「小中一貫教育」の検討を始めました。

小中一貫教育を推進することで、子どもたち一人一人の学力の向上を図るとともに、豊かな心や人間性・社会性を育み、義務教育を修了する時点で、「自立するために必要とされる基礎基本」を身につけることを目指していきます。

2 小中一貫教育の意義

すべての子どもたちが確かな学力を身につけ、豊かな心や健やかな体を育み、たくましく生きていくことは、学校・家庭・地域の願いです。そこで義務教育の9年間を通して継続的で一貫性のある教育の場を設定することで、児童生徒一人一人の個性を伸ばす教育の充実を図ることが必要と考えています。また、三芳町のよさや、各中学校区の地域の特色を生かし、小学校と中学校が一体となって子どもたちを育てることで、三芳町の学校教育の活性化へとつながります。

今日的な様々な学校の課題を解決し、よりよい教育を実現するための手法の一つとして、三芳町では小中一貫教育を導入してまいります。

3 小中一貫教育の内容と期待される効果

【内 容】

- 中学校区で「9年間で育てたい児童・生徒像」を共有します。
- 9年間を見通して教科等の指導計画を見直し、中学校区で実施していきます。
- 積極的に教職員・児童生徒が交流します。
- 学校・家庭・地域が連携して教育を推進していきます。

《期待される効果》

- ① 9年間を見通して教育指導計画を見直し、実施をすることにより、発達段階に応じた系統的・継続的できめ細やかな学習指導及び生徒指導が展開できます。
- ② 小学校から中学校へ進学する際の段差をゆるやかなものとし、円滑な接続を図ることで、中一ギャップの解消等につながり、9年間の安定した学校生活を送れるようになります。
- ③ 不登校問題や問題行動等を減少させることができます。
- ④ 幅広い異年齢集団による活動を通して、豊かな人間性や社会性が育成されます。
- ⑤ 小学校と中学校の教員の相互協力関係が構築でき、学力や体力向上等の取組の充実が図れます。
- ⑥ 地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進することで、保護者や地域の信頼を高め、地域の教育力の向上につながります。
- ⑦ よりよい教育環境づくりに向け、学校、家庭、地域が一体となった取組を進めることが出来ます。

4 小中一貫教育の目標

三芳町教育委員会では、平成21年度三芳教育の目標の中で、「未来を切り拓き社会の変化に主体的に対応できる知性を高め、心身ともに健康で感性豊かな心と創造性をはぐくみ、志をもったたくましい人の育成」を掲げています。

それらを踏まえ、「知・徳・体」のバランスのとれた児童生徒の育成を目指し、次のように「目指す学校像」「育てたい児童生徒像」を設定します。

また、1つの中学校区内にある小学校と中学校が「目指す児童・生徒像」共有し、その実現を目指して、9年間の継続的で一貫性のある教育活動を実施していきます。

三芳町の目指す学校像

- ・確かな学力を身につけさせ、夢や希望を育む学校
- ・三芳町のよさを生かし、家庭・地域社会とともに児童生徒を育てる学校
- ・小中が連携し、組織的に取り組む学校

三芳町の育てたい児童生徒像

「郷土を愛し、未来を拓き、たくましく生きる児童生徒」

- ・知性を育み、夢や希望に向かって粘り強く取り組むことのできる児童生徒
- ・人権を尊重し、豊かな人間性をもった児童生徒
- ・心身共に健康な児童生徒

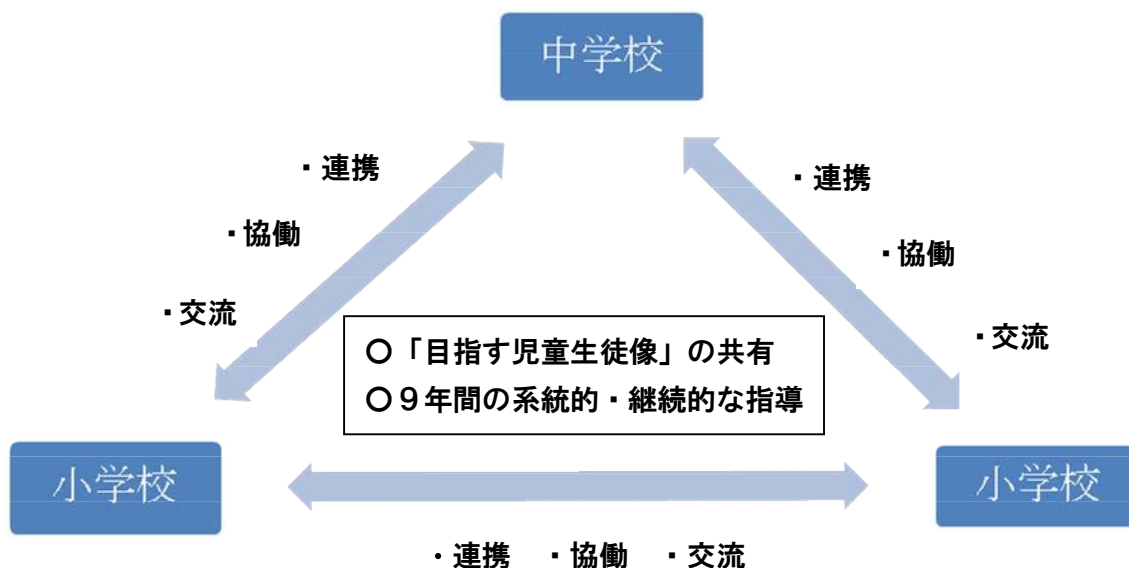
5 小中一貫教育の形態

小中一貫教育では、「小中一体型」「小中併用型」「中学校ブロック連携型」等の型が考えられます。三芳町では実態を考慮して、現行の「6・3制」を崩さず、既存の学校（校舎）を利用して、小中の教職員及び児童生徒が交流していく「中学校ブロック連携型」による小中一貫教育を進めていきます。

中学校区ブロック連携型による小中一貫教育の基本的な考え方

- ・従来の学校教育の枠組みを堅持しつつ、今までの小学校6年間、中学校3年間のそれぞれの校種の独自の指導計画から、小・中学校9年間の指導計画に基づき、系統的・継続的できめ細やかな指導を展開します。
- ・小・中学校教員の連携協力した教育活動を展開し、確かな学力を育む授業を目指し、実践します。
- ・小・中学校の教員が学習指導や生徒指導等、日常的な交流を図ります。
- ・小・中学校の児童生徒が積極的に交流し、よりよい人間関係を構築します。
- ・小・中学校PTAや地域住民との合同事業や相互交流を図ります。

【中学校区ブロックによるモデル】



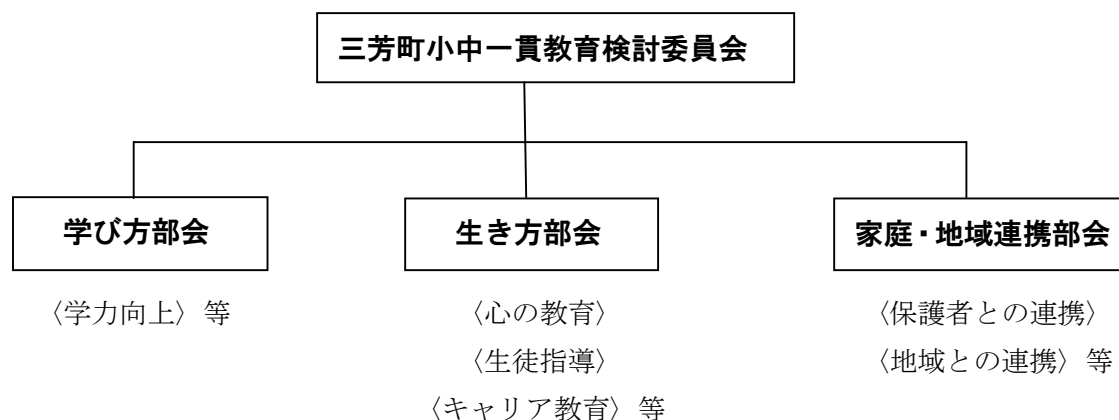
6 今後の予定

三芳町立小中学校における義務教育9年間を連続した期間としてとらえた指導計画を構築し、学校間の連携・接続を図ることにより、継続的な指導体制及び教育環境を整備していきます。これらのことを具体化する検討を行うため、三芳町小中一貫教育検討委

員会を引き続き平成22年度も設置します。

また、下部組織として、小中一貫教育を進めていく上でモデルとなる指導計画や具体的な取組案を作成することを目的とした「学び方部会」「生き方部会」「家庭・地域連携部会」の3つの部会を置き、先行実施のための研究を進めます。

(1) 組織



(2) 主な検討内容

○学び方部会

〈学力向上（重点教科等を設定）〉

- ・ 9年間を通して、基本となる「授業の進め方」「授業の受け方」等を確立する。
- ・ 9年間の系統性を踏まえた指導計画を作成する。
- ・ 学習内容の精選と重点化を検討する。
- ・ その他

○生き方部会

〈心の教育〉

- ・ 人権尊重の意識を高める心の教育の取組を検討する。
- ・ 9年間を通じた道徳の全体計画、指導計画を作成する。
- ・ その他

〈生徒指導〉

- ・ 9年間を見通した「あいさつ」「授業規律」「時間厳守」等の指導計画を作成し、意識を高める指導法について検討する。
- ・ 小中一貫した生活のきまり、取組を作成する。
- ・ 教育相談における小中の連携のあり方を検討する。
- ・ その他

〈キャリア教育〉

- ・ 勤労観、職業観を育む9年間の指導計画を作成する。
- ・ 勤労観、職業観を育む具体的な学習及び活動を検討する。
- ・ その他

○家庭・地域連携部会

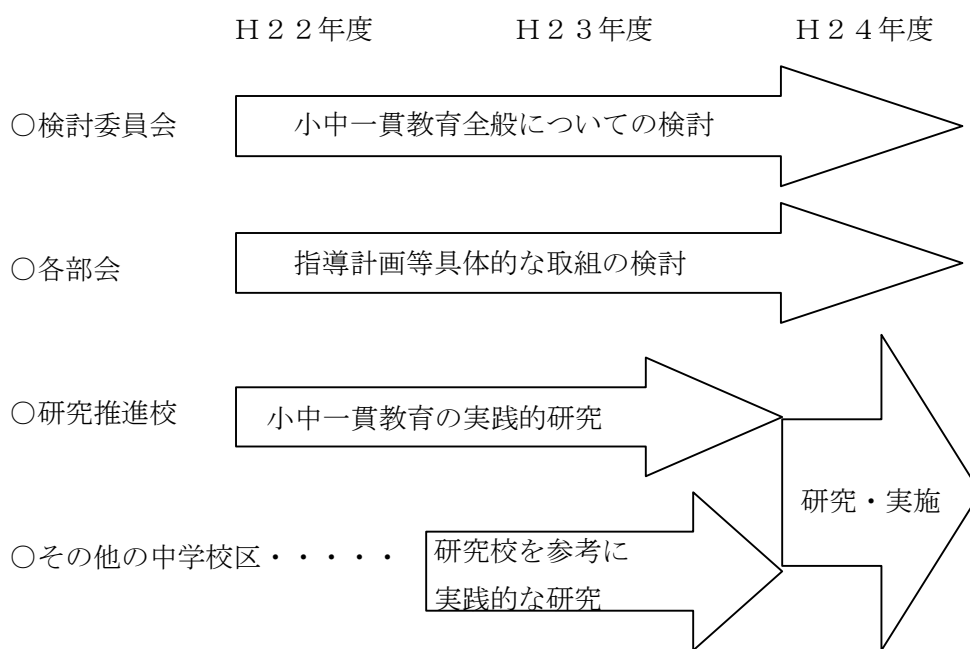
〈保護者との連携〉

- ・ 小中合同のPTA活動を検討する。
- ・ その他

〈地域との連携〉

- ・ 自治区を単位とした小中の連携のあり方について検討する。
- ・ 小中が連携した学校応援団の組織作りに取り組む。
- ・ その他

(3)平成22年度以降の計画



※平成22年度に研究推進校として、1つの中学校区を委嘱する。

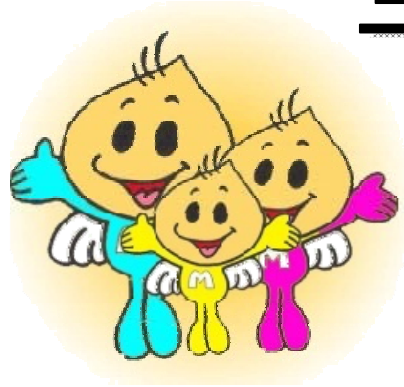
〈資料〉

(1) 三芳町小中一貫教育全体構想(別紙 1)

(2) 中学校生活についてのアンケート集計(別紙 2)

(3) 児童生徒の実態に関するアンケート集計(別紙 3)

三芳町小・中学校一貫教育全体構想図



～次代を担う三芳町の子どもたちのよりよい成長のために～

三芳町教育委員会

三芳町教育委員会では、すべての子どもたちが確かな学力を身につけ、豊かな心や体をはぐくみ、たくましく生きていくためには、義務教育の9年間を通して継続的で一貫性のある教育を行うことが、重要であると考えます。三芳町のよさや、各中学校区の地域の特色を生かし、小学校と中学校が一体となって子どもたちの育成を目的として、小・中一貫教育の取組を推進してまいります。

郷土を愛し、未来を拓き、たくましく生きる児童生徒

生きる力の育成

一知・徳・体の調和のとれた

児童・生徒の育成

- ・ 確かな学力と自立する力の育成
- ・ 豊かな心の育成
- ・ 健やかな体の育成

- 知性をはぐくみ、夢や希望に向かってねばり強く取り組むことの出来る児童生徒
- 人権を尊重し、豊かな人間性を持った児童生徒
- 心身共に健康な児童生徒

三芳町の目指す学校像

- ・ 確かな学力を身につけさせ、夢や希望を育む学校
- ・ 三芳町のよさを生かし、家庭・地域社会とともに児童生徒を育てる学校
- ・ 小中が連携して、組織的に取り組む学校

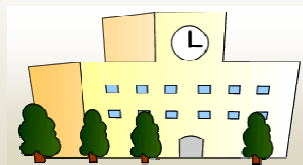
小・中一貫教育の推進

- 1 中学校区ごとに推進する。
- 2 小学校と中学校が9年間を通して育てたい「目指す児童・生徒像」を設定し、共有する。
- 3 小学校と中学校が連携し、教科・領域等で9年間の指導計画を策定して、実施する。

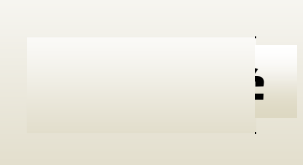
中学校区ブロックで「目指す児童生徒像」を共有

- ・ 9年間の継続的なカリキュラム
- ・ 学習指導、生活指導のなめらかな移行
- ・ 小中学校間の子ども、教員の積極的な交流

中学校区ブロック連携型による小中一貫教育



小学校



1つの中学校区



中学校

学び方部会

- ・ 9年間を見通した指導計画の見直し
- ・ 系統的、継続的な指導方法、授業規律の確立 等

生き方部会

- ・ 心の教育
 - 豊かな心の育成
- ・ 生徒指導
 - 小中一貫した生活のきまりの作成や教育相談におけるあり方
- ・ キャリア教育
 - 9年間を見通した、勤労観・職業観の育成 等

家庭・地域連携部会

- ・ 小中学校合同のPTA活動
- ・ 小中が連携した学校応援団等の組織作り 等

小・中一貫教育でめざすもの

- ◇小中学校の教職員が連携し、義務教育9年間の連続性を図った指導計画に基づく教育活動を展開する。
- ◇小中学校の教職員が「学力観」「指導観」等の共有化を図り、授業改善を推進し、児童生徒の学力の向上を目指す。
- ◇義務教育9年間のなめらかな移行の中で、「中一ギャップ」等の今日的な児童生徒指導上の問題の解決を目指す。
- ◇義務教育9年間を通じた児童生徒理解を一層充実させることでいじめや不登校など、子どもの心情に関わる問題解決に当たる。
- ◇よりよい教育環境づくりに向け、学校・家庭・地域が一体となって取組、地域を支える次代の人材を育成する。

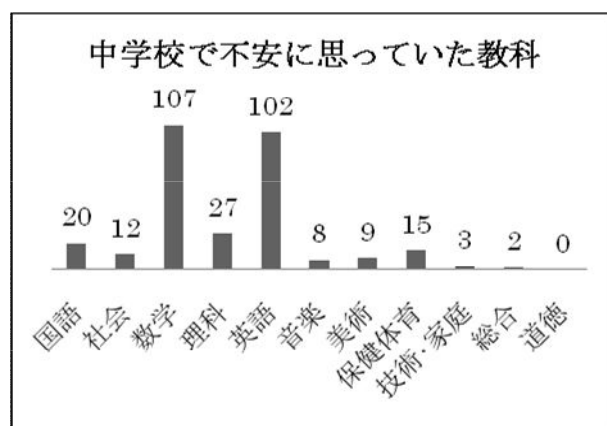
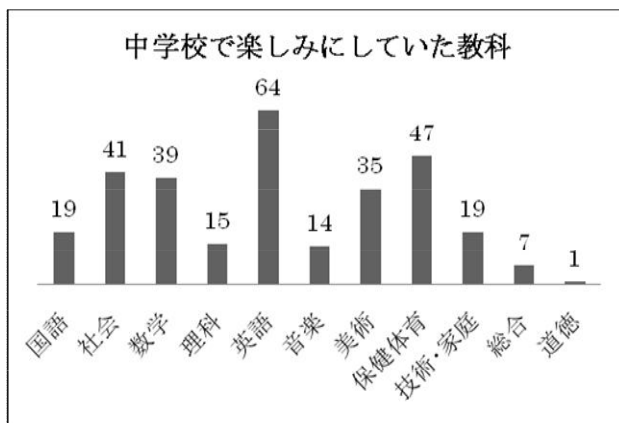
期待される効果

- 1 9年間を見通した指導計画を見直し、系統的・継続的できめ細やかな学習指導、生徒指導が展開できる。
- 2 小学校と中学校の段差を緩やかなものとし、円滑な移行が図れることで、「中一ギャップ」の解消につながる。
- 3 不登校や問題行動の減少が図れる。
- 4 異年齢集団による活動を通して、豊かな人間性や社会性が育成される。
- 5 小学校と中学校の教員の相互協力関係が構築でき、学力や体力向上の取組の充実が図れる。
- 6 地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進することで、地域の教育力向上につながる。
- 7 よりよい教育環境づくりにむけ、家庭・学校・地域が一体となって取り組める。

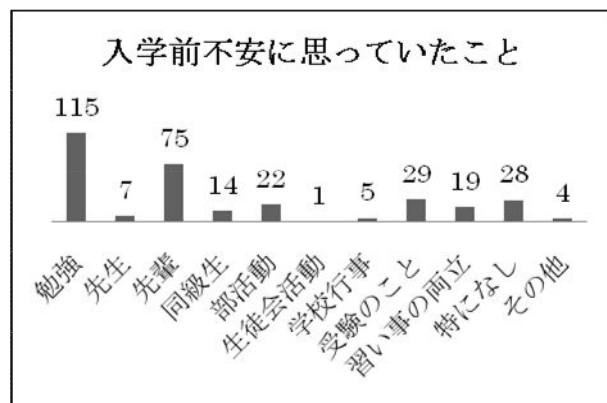
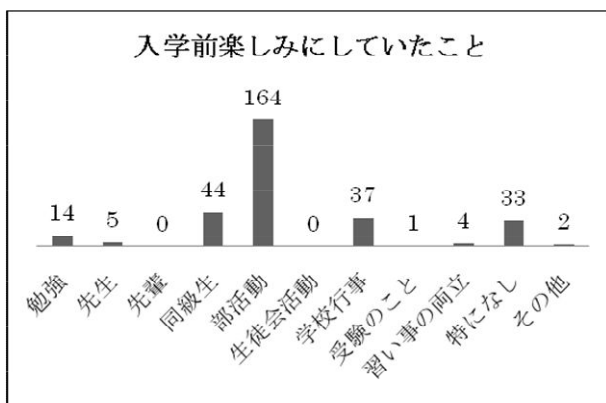
別紙 2

中学校生活についてのアンケート集計

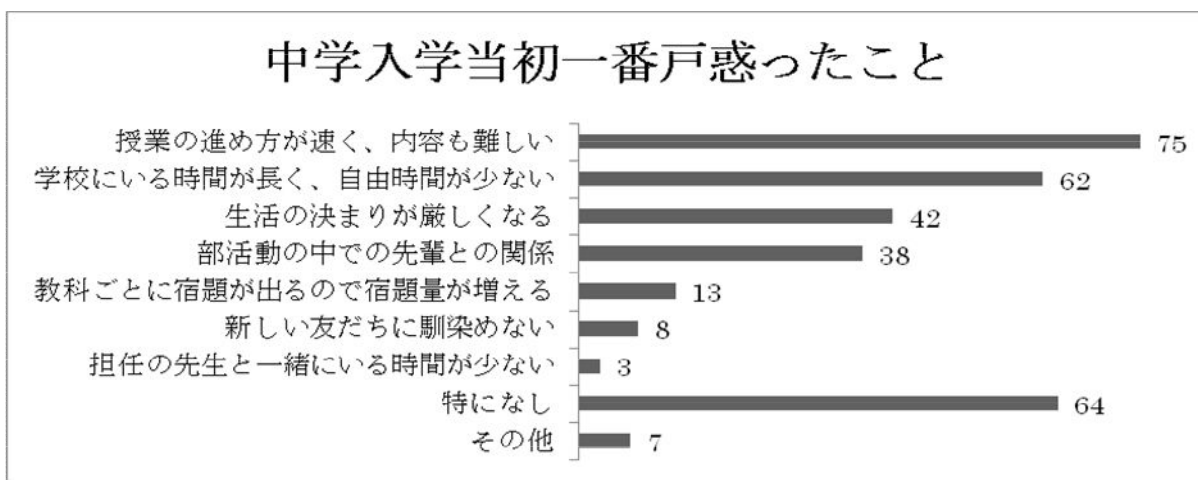
対 象 三芳町内公立中学校 1年生
 調査年月日 平成21年12月
 回収率 94.7% (301人/318人中)



- 中学校で本格的にスタートする英語に対する期待は大きいようです。
- 中学校は教科担任制になり、小学校に比べ専門的に、詳しく教えてもらえることに期待している生徒も多くいるようです。
- 専門的な指導では、体育に対する期待が大きいようです。
- 小学校のときの英語活動で、すでに英語につまずき、英語に対して苦手意識がでてしまい、中学校での英語に不安を持った生徒も多かったようです。
- もっとも不安だった教科は「数学」でした。これは小学校の頃からの積み重ねが十分でなかったこととつまずいたまま中学校に入学してきたことが原因のように思われます。



- 中学入学で楽しみにしていたことは、やはり「部活動」が圧倒的です。
- 学校行事や友達との新しい人間関係も楽しみにしているようです。
- 「勉強のこと」や「先輩との関係」に不安を感じていた人も多かったようです。
- その他として、「友達ができるか」「定期テストのこと」「違う小学校の人と仲良くや
っていけるか」等の不安があげられています。
- 1年生入学当初より、受験のことが気になっている生徒もいるようです。



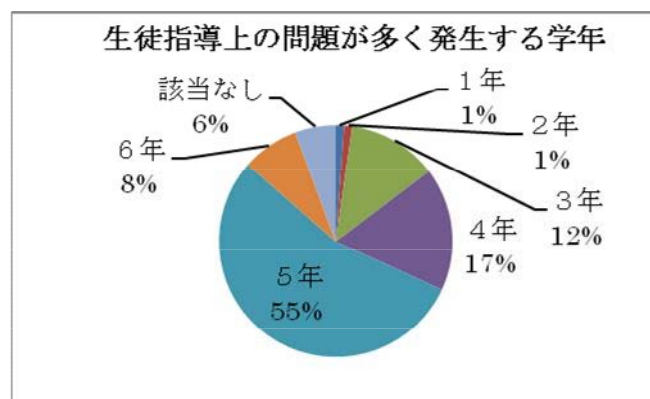
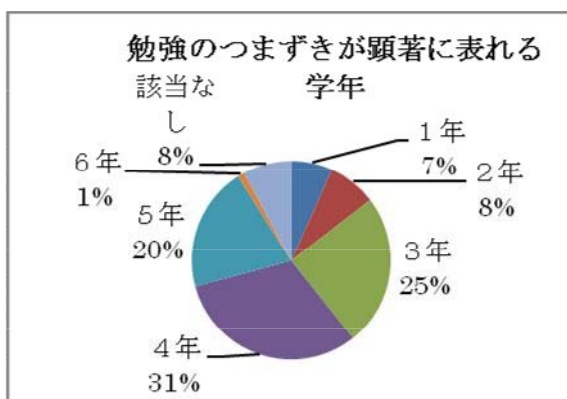
- 生活環境が変わることによる戸惑いがとても多いようです。
- 特に部活動は期待する反面、部活動が始まることで、今までの自由な時間が少なくなるのではといった心配あるようです。
- 「先輩へのあいさつ」については、小学校では経験のないことなので、抵抗があります。
- 大人から見ると小さな変化であっても、子どもたちは戸惑いがあるようです。たとえば「教科書の厚み」「階段の一段の高さ」等にも戸惑うようです。

児童生徒の実態に関するアンケートの集計

対 象	三芳町内公立小中学校 教職員
調査年月日	平成21年12月
回収率	小学校教職員 83.2% (89人/107人中) 中学校教職員 84.7% (50人/59人中)



児童の実態



◇学習のつまずきは3、4年生で顕著に現れてきます。

(低学年でのつまずきの原因)

- ・入学時にすでにあった学力差。
- ・かけ算が定着できない。
- ・家庭での協力が得られないことによる。

(中学年でのつまずきの原因)

- ・1, 2年の基礎学力の定着、学習の積み重ねが出来ていない。
- ・学習量の増加、内容が難しくなる。
- ・学校生活に慣れた気のゆるみと、6時間授業に集中仕切れない。
- ・親の手が離れはじめ、それが学習意欲へも影響してくる。

(高学年でのつまずきの原因)

- ・具体的なものの考え方から、抽象的なものの考え方が必要とされてくる。
- ・教科の好き、嫌いがはっきりし、苦手な教科は手を付けなくなってくる。
- ・他との学力差を感じ、それが学習意欲の低下につながってくる。

◇生徒指導上の問題は5年生で目立ってきます。

(低学年での主な理由)

- ・家庭でのしつけが影響している。
- ・自己中心的な面が抜けきれない。

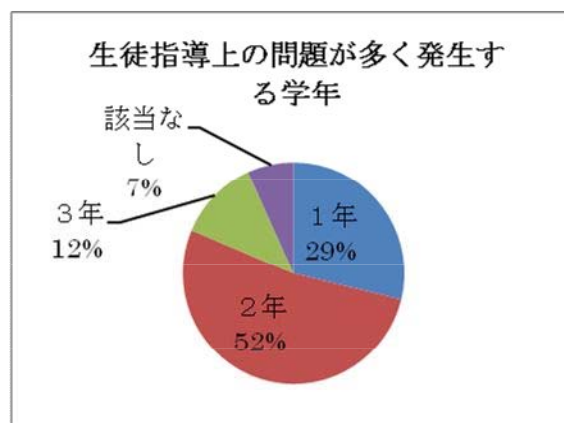
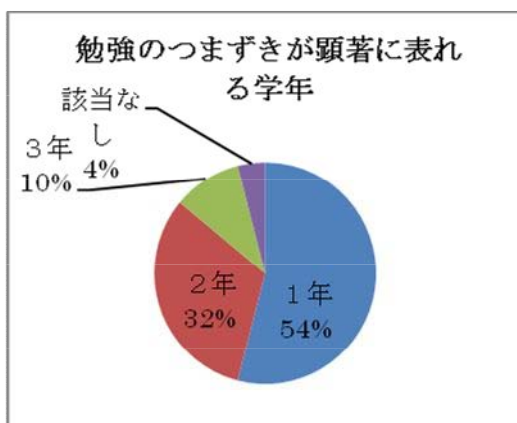
(中学年での主な理由)

- ・人間関係作りの難しさを感じはじめる。
- ・コミュニケーション能力の欠如による。
- ・自分の気持ちを主張し、グループをつかって行動するようになる。

(高学年での主な理由)

- ・自我が芽生え、第二次性徴により、心と体のバランスを崩してくる。
- ・力差の固定化、友人関係の固定化が強くなり、問題が生じたときに悪循環をうむ。
- ・中学生とのつながりや、親への秘密ができてくる。
- ・正義の通らない力関係がでてくる。

生徒の実態



◇学習のつまずきは中学1年生で顕著に現れてきます。

(中学1年でのつまずきの原因)

- ・教科担任制の戸惑いと小学校の学習と中学校の学習がうまく連動していない。
- ・小学校での理解度に関係なく、授業が一方向的に進んでしまう。
- ・小学校と中学校のテストのあり方の違い、授業を進める速さに戸惑いを感じる。
- ・小学校のころの生活習慣から抜けきれず、家庭学習の習慣化が図れていない。

(中学2年でのつまずきの原因)

- ・ 2年生くらいから、急に学習内容が難しくなる。
- ・ 家庭学習が習慣化されていない。継続した学習ができず、やりっ放しの学習になっている。
- ・ 学力差がはっきりすることで意欲の低下してくる。

(中学3年でのつまずきの原因)

- ・ 本人の努力不足。
- ・ 学習に対する意欲が二極化する。

◇生徒指導上の問題は中学2年生で目立ってきます。

(中学1年での主な理由)

- ・ 小学校のときに出はじめた問題行動が、中学校に入学して顕著になった。
- ・ 目標がもてないことや自分の力を知り、前向きになれない。
- ・ 小学校からの移行がスムーズに出来ず、不登校になるケースもある。

(中学2年での主な理由)

- ・ 中だるみで緊張感がもてない。
- ・ 学校の中で中心となって活動する場が増え、その責任や重圧に耐えられない。
- ・ 打ち込めるものがもてない生徒は、他への関心が高まる。

(中学3年での主な理由)

- ・ 最高学年でおもい通りに行動できる環境になってくる。
- ・ 受験への不安に耐えられない。

◇小学校の先生から見た中学校の生徒指導の難しさ

- ・ 家庭での協力が得られない。
- ・ しつけや指導の方針が統一されないと、ずれが生じ指導が難しい。
- ・ 当たり前のことが通じないとき。
- ・ 親を含めての指導となること。
- ・ 不登校の問題。
- ・ ネットいじめのような問題。

◇中学校の先生の立場で、中学校の生徒指導の難しさ

- ・ 親の理解が得られない場合。
- ・ 保護者の考え方と学校の指導の方針が一致しない時。
- ・ 反抗期にありがちな反発。
- ・ 塾などを通しての他校との結びつきが出来てしまった場合。
- ・ 性に関する問題行動の場合。